

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3717331号

(P3717331)

(45) 発行日 平成17年11月16日(2005.11.16)

(24) 登録日 平成17年9月9日(2005.9.9)

(51) Int.Cl.⁷

F I

A 4 7 K 10/42

A 4 7 K 10/42

A

A 4 7 K 7/00

A 4 7 K 7/00

C

B 6 5 D 83/08

B 6 5 D 83/08

D

請求項の数 9 (全 12 頁)

(21) 出願番号	特願平11-89493	(73) 特許権者	000115108
(22) 出願日	平成11年3月30日(1999.3.30)		ユニ・チャーム株式会社
(65) 公開番号	特開2000-279343(P2000-279343A)		愛媛県四国中央市金生町下分182番地
(43) 公開日	平成12年10月10日(2000.10.10)	(74) 代理人	100085453
審査請求日	平成15年1月16日(2003.1.16)		弁理士 野▲崎▼ 照夫
		(72) 発明者	田中 良和
			香川県三豊郡豊浜町和田浜高須賀1531
			-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカル
			センター内
		(72) 発明者	山路 美津子
			香川県三豊郡豊浜町和田浜高須賀1531
			-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカル
			センター内
		審査官	江成 克己
			最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ウエットティッシュ包装体

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

長方形または正方形のウエットティッシュが折り畳まれ、且つ複数枚が積層されて袋状または容器状の包装体の内部に収納され、前記包装体の上面には、前記ウエットティッシュを取り出す開口部が形成されているウエットティッシュ包装体において、

前記ウエットティッシュは、第1の折り線(L1)により折られて、面積がほぼ1/2となる折り体とされ、

この折り体が、前記第1の折り線(L1)と平行な第2の折り線(L2)で折られて、前記第1の折り線(L1)が前記折り体の表面側へ重ねられるとともに、前記第1の折り線(L1)と平行な第3の折り線(L3)によって、前記第1の折り線(L1)と逆側の縁部(11b)が前記折り体の裏面側へ重なるように折られ、

さらに、前記第1の折り線(L1)と直交する第4の折り線(L4)により、前記裏面が谷側となるようにほぼ2つ折りされており、

前記のように折り畳まれたウエットティッシュは、前記表面が前記包装体の上面に向けられ、この表面に現れている前記第1の折り線(L1)が包装体の開口部に露出するように、前記包装体内に収納されていることを特徴とするウエットティッシュ包装体。

【請求項2】

長方形または正方形のウエットティッシュが折り畳まれ、且つ複数枚が積層されて袋状または容器状の包装体の内部に収納され、前記包装体の上面には、前記ウエットティッシュを取り出す開口部が形成されているウエットティッシュ包装体において、

10

20

前記ウェットティッシュは、第1の折り線（L1）により折られるとともに、前記第1の折り線（L1）と逆側の縁部（11b）よりも内側に位置する他の折り線（L8）で折られて、面積が $1/2$ 未満となる折り体とされ、

この折り体が、前記第1の折り線（L1）と平行な第2の折り線（L2）で折られて、前記第1の折り線（L1）が前記折り体の表面側へ重ねられるとともに、前記第1の折り線（L1）と平行な第3の折り線（L3）によって、前記他の折り線（L8）が前記折り体の裏面側へ重なるように折られ、

さらに、前記第1の折り線（L1）と直交する第4の折り線（L4）により、前記裏面が谷側となるようにほぼ2つ折りされており、

前記のように折り畳まれたウェットティッシュは、前記表面が前記包装体の上面に向けられ、この表面に現れている前記第1の折り線（L1）が包装体の開口部に露出するように、前記包装体内に収納されていることを特徴とするウェットティッシュ包装体。

10

【請求項3】

前記第3の折り線（L3）で折られて前記折り体の裏面側に重ねられた部分が、さらに前記第3の折り線（L3）と前記縁部（11b）との中間に位置する第5の折り線（L5）で折られ、前記縁部（11b）が第3の折り線（L3）の下方に重ねられている請求項1記載のウェットティッシュ包装体。

【請求項4】

前記第3の折り線（L3）で折られて前記折り体の裏面側に重ねられた部分が、さらに前記第3の折り線（L3）と前記他の折り線（L8）との中間に位置する第5の折り線（L5）で折られ、前記他の折り線（L8）が第3の折り線（L3）の下方に重ねられている請求項2記載のウェットティッシュ包装体。

20

【請求項5】

前記折り体の表面側に重ねられた部分が、第1の折り線（L1）と第2の折り線（L2）との中間に位置する第6の折り線（L6）で折られて、前記第1の折り線（L1）が第2の折り線（L2）の上方に重ねられ、前記第1の折り線（L1）が開口部に露出する代わりに、前記第6の折り線（L6）が開口部に露出し、または第1の折り線（L1）と前記第6の折り線（L6）の少なくとも一方が開口部に露出する請求項1ないし4のいずれかに記載のウェットティッシュ包装体。

【請求項6】

前記第2の折り線（L2）と前記第3の折り線（L3）とで決められる幅寸法のほぼ $1/2$ の位置に、前記第1の折り線（L1）が位置している請求項1ないし4のいずれかに記載のウェットティッシュ包装体。

30

【請求項7】

前記第2の折り線（L2）と前記第3の折り線（L3）とで決められる幅寸法のほぼ $1/2$ の位置に、前記第6の折り線（L6）が位置している請求項5記載のウェットティッシュ包装体。

【請求項8】

展開状態のウェットティッシュの前記第1の折り線と平行な縁辺の長さをb、これと直交する縁辺の長さをaとしたときに、aとbの差が30mm以上であり、且つ $a > b$ である請求項1ないし7のいずれかに記載のウェットティッシュ包装体。

40

【請求項9】

展開状態のウェットティッシュの前記第1の折り線と平行な縁辺の長さをb、これと直交する縁辺の長さをaとしたときに、aとbの差が30mm未満であり、 $a > b$ 、 $a < b$ 、あるいは $a = b$ である請求項1ないし7のいずれかに記載のウェットティッシュ包装体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、ウェットティッシュが収納された包装体に係り、特に、ウェットティッシュを

50

2つ折りの状態で取り出すことができる、携帯用に適したコンパクトなウェットティッシュ包装体に関する。

【0002】

【従来の技術】

乳児または幼児に対しておむつを交換する際のお尻拭きなどとして使用されるウェットティッシュは、不織布に水または薬液を含浸させたものであり、これらは袋状の包装体内に複数枚重ねられて収納されている。

従来のウェットティッシュは、1枚ずつが折り畳まれて、前記包装体の内部に積層されて収納されており、包装体の上面に開口する開口部から1枚ずつ取出して使用できるようになっている。

10

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

前記従来の前記ウェットティッシュは、広げて使用すると、1枚構造であるため、お尻拭きとして使用するとき汚物が浸透するおそれがある。したがって、汚物を拭き取る際には、包装体から取出したウェットティッシュを一旦手で広げ、それから2つ折りや4つ折りに折り畳んで使用することになる。しかし、包装体内から取出したウェットティッシュを一度広げ折り畳んでから使用するのではきわめて不便である。

【0004】

またこの種のウェットティッシュは小型の袋状の包装体内に収納した状態で携帯できるようにすることが好ましいが、小型の包装体内に、1枚のウェットティッシュを折り畳んで収納するためには、1枚のウェットティッシュの面積を小さくしなくてはならない。このような小さいウェットティッシュを2つ折りにして使用すると、小さくなりすぎて、汚物を拭き取るときに、汚物が手に付着しやすい。

20

【0005】

一方、広い面積の1枚のウェットティッシュを、小型の包装体に合うようにコンパクトに折り畳もうとすると、きわめて複雑な多重折りとしなくてはならない。この場合には、包装体の開口部から1枚ずつ取出したときに、ウェットティッシュがくしゃくしゃになり、広げてから折り畳むという取り扱いがしづらくなる。

【0006】

本発明は、上記従来の課題を解決するものであり、包装体から取出した時点で、2枚折り状態での使用ができ、従来のような折り畳み操作が不要になり、また1枚の状態では広い面積を有するものであっても包装体内にコンパクトに収納できるウェットティッシュ包装体を提供することを目的としている。

30

【0007】

【課題を解決するための手段】

本発明は、長方形または正方形のウェットティッシュが折り畳まれ、且つ複数枚が積層されて袋状または容器状の包装体の内部に収納され、前記包装体の上面には、前記ウェットティッシュを取り出す開口部が形成されているウェットティッシュ包装体において、

前記ウェットティッシュは、第1の折り線（L1）により折られて、面積がほぼ1/2となる折り体とされ、

40

この折り体が、前記第1の折り線（L1）と平行な第2の折り線（L2）で折られて、前記第1の折り線（L1）が前記折り体の表面側へ重ねられるとともに、前記第1の折り線（L1）と平行な第3の折り線（L3）によって、前記第1の折り線（L1）と逆側の縁部（11b）が前記折り体の裏面側へ重なるように折られ、

さらに、前記第1の折り線（L1）と直交する第4の折り線（L4）により、前記裏面が谷側となるようにほぼ2つ折りされており、

前記のように折り畳まれたウェットティッシュは、前記表面が前記包装体の上面に向けられ、この表面に現れている前記第1の折り線（L1）が包装体の開口部に露出するように、前記包装体内に収納されていることを特徴とするものである。

または、前記ウェットティッシュは、第1の折り線（L1）により折られるとともに、

50

前記第1の折り線（L1）と逆側の縁部（11b）よりも内側に位置する他の折り線（L8）で折られて、面積が $1/2$ 未満となる折り体とされるものである。

【0008】

また、前記折り体の裏面側において、第3の折り線（L3）で折られた部分が、さらに折り線（L5）で折られて、前記縁部（11b）が第3の折り線（L3）の下方に重ねられているものでもよい。

【0009】

あるいは、前記折り体の表面側に重ねられた部分が、第1の折り線（L1）と第2の折り線（L2）との中間に位置する折り線（L6）で折られて、前記第1の折り線（L1）が第2の折り線（L2）の上方に重ねられ、前記第1の折り線（L1）の代わりに前記折り線（L6）が開口部に露出し、または第1の折り線（L1）と前記折り線（L6）の少なくとも一方が開口部に露出するものにできる。

10

【0010】

本発明では、ウェットティッシュは予め面積が $1/2$ または $1/2$ 未満に折られたものが、さらに第2の折り線、第3の折り線および第4の折り線によりコンパクトな大きさに折り畳まれた状態で、包装体内に収納されている。

【0011】

包装体の開口部には、第1の折り線（L1）および／または第1の折り線（L1）と第3の折り線（L3）の中間に位置する折り線（L6）が現れているので、この第1の折り線（L1）の部分または前記折り線（L6）の部分を摘んで引き出すと、面積が $1/2$ または $1/2$ 未満の状態で、容器から取出すことができる。よってさらに折り畳むことなく、汚物の拭き取りなどを行うことができる。

20

【0012】

また、第1の折り線で折られた状態で使用することを前提として折り畳まれているため、展開した状態で1枚のウェットティッシュの面積が広いものであっても、小さい包装体内にコンパクトに収納することができる。

【0013】

上記において、前記第4の折り線で折られたウェットティッシュでは、前記第2の折り線（L2）と前記第3の折り線（L3）とで決められる幅寸法（D）のほぼ $1/2$ の位置に前記第1の折り線（L1）または第1の折り線（L1）と第3の折り線（L3）の中間に位置する折り線（L6）が位置していることが好ましい。

30

このようにすると、包装体の上面のほぼ中央または側方に開口する開口部から折り体の状態のウェットティッシュを順次取出すことができる。

【0014】

例えば、前記第1の折り線により折られた折り体は、展開状態のウェットティッシュのほぼ $1/2$ の面積となるように完全に2つ折りされていてもよいし、あるいは、前記第1の折り線により折られた折り体では、前記第1の折り線と逆側の縁部がさらに折られているものであってもよい（図9（A）（B）の状態）。ただし、第1の折り線で折られた状態の折り体の面積が、展開状態の $1/2$ 以下であることが条件である。

【0015】

40

また、展開状態のウェットティッシュの前記第1の折り線と平行な縁辺の長さをb、これと直交する縁辺の長さをaとしたときに、aとbの差が30mm以上である場合には、 $a > b$ であることが好ましい。

【0016】

また、展開状態のウェットティッシュの前記第1の折り線と平行な縁辺の長さをb、これと直交する縁辺の長さをaとしたときに、aとbの差が30mm未満である場合には、 $a > b$ 、 $a < b$ 、あるいは $a = b$ のいずれであってもよい。

【0017】

【発明の実施の形態】

以下本発明を図面を参照しながら説明する。

50

図1は本発明のウェットティッシュ包装体を示す斜視図、図2と図3は図1に示す包装体に収納されているウェットティッシュの折り畳み状態を順に示す斜視図、図4は包装体からウェットティッシュを引き出す操作を示す斜視図である。

【0018】

図1に示すウェットティッシュ包装体では、袋状の包装体1の内部に、ウェットティッシュ11の折り畳み体10が複数枚重ねられて収納されている。

包装体1は、表面（外側）からポリエチレンテレフタレート（PET）フィルム、アルミニウム箔、いわゆるシーラントと呼ばれるヒートシール性の2軸延伸ポリプロピレン（CPP）フィルムなどが順に積層されて、互いに接着された積層フィルムから形成されている。または、PETフィルムにアルミニウム、シリカまたはアルミナが蒸着されたものに、ヒートシール性のフィルムが重ねられているものでもよい。

10

【0019】

前記ヒートシール性のフィルムが包装体1の内側になる方向に向けられて、積層フィルムにより内容物となるウェットティッシュ11が包まれる。そして、積層フィルムは縦方向にヒートシールにより接合され、且つ横方向にもヒートシールにより接合されて包装体1が形成される。

【0020】

前記袋状の包装体1は携帯用であり、その上面2はほぼ平坦面となっており、この上面2に開口部3が形成されている。この包装体1では、前記上面2の表面において、前記開口部3を塞ぐ蓋材が粘着されて取付けられている。不使用時には、前記蓋材で開口部3を塞ぐことにより、包装体1の内部が密封され、ウェットティッシュの乾燥を防止できる。また使用時には、前記蓋材を剥がし、開口部3からウェットティッシュを1枚ずつ取出す。

20

【0021】

前記ウェットティッシュは、乳児や幼児のおむつの交換時におけるお尻拭き、または幼児や乳児以外の人のお尻や局部あるいは手や足の清掃用としての使用に適したものであり、例えば、目付けが $30 \sim 60 \text{ g/m}^2$ 程度の厚めの不織布であり、パルプとレーヨンおよび必要に応じて他の素材とから成る繊維ウェットが湿式で形成され且つウォータジェット処理が施されたспанレース不織布である。乾燥した不織布に水または薬液が含浸された状態で前記包装体1内に収納されている。また、ウェットティッシュの大きさは、例えば $b = 140 \sim 150 \text{ mm}$ 、 $a = 180 \sim 205 \text{ mm}$ 程度のものである。

30

【0022】

以下、前記ウェットティッシュの折り畳み体10の折り畳み構造について説明する。

図2（A）は展開した状態のウェットティッシュ11を示している。このウェットティッシュ11は第1の折り線L1により2つ折りされるが、この第1の折り線L1と平行な縁辺（長方形のウェットティッシュでは短辺）11bの長さをb、前記第1の折り線L1と直交する縁辺（長方形のウェットティッシュでは長辺）11aの長さをaとする。

【0023】

前記展開状態のウェットティッシュ11を前記第1の折り線L1により2つ折りした折り体12を図2（B）に示す。前記第1の折り線L1は、縁辺11aの長さaの midpoint に設定されているため、図2（B）に示す折り体12では、縁辺11bと11bとが完全に揃えられ、また縁辺11aも完全に揃えられて、2つ折りされた状態の面積が、図2（A）に示した展開状態のウェットティッシュ11の $1/2$ である。また本発明では、縁辺11aと11aおよび縁辺11bと11bとの重なりが若干ずれていてもよい。この場合、図2（B）に示す折り体12は、その面積が図2（A）に示す展開状態のウェットティッシュ11のほぼ $1/2$ である。

40

【0024】

図2（B）に示す折り体12において図の上方を向く面を表面12a、下方を向く面を裏面12bとする。図2（B）に示す2つ折りの折り体12において、前記第1の折り線L1から所定の幅（折り体12の側辺の長さAの $1/4$ の幅）の部分が、第2の折り線L2で折り曲げられ、前記第1の折り線L1が、折り体12の表面12aに重ねられる。また

50

前記第1の折り線L1と逆側の縁辺11b, 11bから所定の幅(好ましくは $A/4$ の幅)の部分が、第3の折り線L3によって折り曲げられ、縁辺11b, 11bが折り体12の裏面12bに重ねられる。このようにZ形状に折られたZ折り体13の形状を図3(A)に示す。

【0025】

図3(A)に示すZ折り体13は、その長辺の長さBのほぼ中点を通る第4の折り線L4により折り畳まれる。このとき、前記折り体12の裏面12b側が谷折りになるように2つ折りされる。第4の折り線L4を境として上側となる上部折り部を符号10Aで、下側の下部折り部を符号10Bで示す。上部折り部10Aと下部折り部10Bとがほぼ完全に揃えられるように折り畳まれて、収納状態の折り畳み体10が形成される。

10

この折り畳み体10では、その1辺の幅寸法Cのほぼ中心に第1の折り線L1が現れている。

【0026】

図1に示すように、ウェットティッシュ11の折り畳み体10は、上部折り部10Aの表面12aおよびこれに重ねられている第1の折り線L1が、包装体1の上面2に向けられ、前記第1の折り線L1のうちの縁辺11aに近い片寄り部分L1aが開口部3のほぼ中心に現れるように、包装体1の内部に収納されている。

【0027】

図4に示すように、包装体1の上面2の開口部3に現れている第1の折り線L1の片寄り部分L1aを摘まんで上方へ引き出す。このとき上部折り部10Aが持ち上げられる。そのまま持ち上げると、上部折り部10Aと下部折り部10Bとが上下に広げられる。さらに第1の折り線L1の片寄り部分L1aが引き上げられると、Z折りが解れる。よって、図4の上方に示すように、ウェットティッシュ11は、図2(B)に示した2つ折りの折り体12に展開させられた状態で取出される。

20

【0028】

ウェットティッシュ11は、図4に示すように、第1の折り線L1によって予め2つ折りされた状態で使用することができる。よって汚物を拭くときに、汚物が2枚重ねのウェットティッシュで受け止められることになる。なお、図4に示す状態に取出されたウェットティッシュを1回だけ折り畳むことで、4つ折り状態として使用できる。

【0029】

このウェットティッシュ収納体では、図3(B)の折り畳み体10の面積が、図3(A)のZ折り体13の面積のほぼ $1/2$ である。図3(A)に示すZ折り体13の面積は、図2(B)に示す折り体12の $1/2$ である。図2(A)から(B)に移行する際に面積が $1/2$ とされている。以上から、図2(A)に示す展開状態のウェットティッシュ11の面積に対し、図3(B)に示す折り畳み体10の面積は、 $1/8$ である。このように、包装体1に収納される状態での折り畳み体10は、図2(A)に示す1枚の展開状態のウェットティッシュ11の面積の $1/8$ となり非常にコンパクトになる。しかも包装体1から取出した使用時では、図2(A)の展開状態の $1/2$ の大きさを使用できるため、比較的広い面積で汚物を拭き取ることが可能である。

30

【0030】

図5および図6は本発明の第2の実施の形態でのウェットティッシュの折り畳み体20を作成する折り畳み順序を示している。

40

図5は、図2(B)に示すものと同じであり、1枚のウェットティッシュ11が第1の折り線L1により2つ折りされて、ウェットティッシュ11の面積の $1/2$ の面積またはほぼ $1/2$ の面積とされた折り体12である。

【0031】

この折り体12の1辺の長さAを5等分し、第1の折り線L1から $A/5$ の幅の部分に設定される第2の折り線L2により折り曲げられ、第1の折り線L1が折り体12の表面12aに重ねられる。また、第1の折り線L1と逆側の縁辺11bから幅($2/5$)Aの部分に第3の折り線L3が設定され、縁辺11bが折り体12の裏面12bに重ねられる。

50

さらに縁辺 1 1 b から幅 $A/5$ の部分に設定された第 5 の折り線 L 5 により折られ、縁辺 1 1 b が第 3 の折り線 L 3 と一致またはほぼ一致する形状に折られて、変形 Z 折り体 2 1 が形成される。この変形 Z 折り体 2 1 の長辺の $1/2$ の部分に設定される第 4 の折り線 L 4 により、2 つ折りとなるように折り畳まれて、図 6 (B) に示す折り畳み体 2 0 が形成される。

【0032】

図 6 (B) に示す折り畳み体 2 0 では、その面積が、図 2 (A) に示す展開されたウェットティッシュ 1 1 の面積の $1/10$ となり、きわめてコンパクトになる。また図 6 (B) に示す折り畳み体 2 0 では、幅寸法 D の $1/2$ の部分に第 1 の折り線 L 1 が現れている。

【0033】

図 6 (B) に示す折り畳み体 2 0 は、図 1 に示すのと同じ構造の包装体 1 内に収納され、開口部 3 の中心に第 1 の折り線 L 1 が現れる。開口部 3 に現れている第 1 の折り線 L 1 を引き上げると、第 4 の折り線 L 4 での折り状態が広げられ、さらに変形 Z 折りも広げられて、2 枚折りされた折り体 1 2 の状態で引き上げられる。

【0034】

図 7 および図 8 は本発明の第 3 の実施の形態でのウェットティッシュの折り畳み体 3 0 を作成する折り畳み順序を示している。

図 7 には、1 枚のウェットティッシュ 1 1 が第 1 の折り線 L 1 により 2 つ折りされて、ウェットティッシュ 1 1 の面積の $1/2$ の面積またはほぼ $1/2$ の面積とされた折り体 1 2 が示されている。

【0035】

図 8 (A) では第 1 の折り線 L 1 から $A/3$ の幅の部分に設定される第 2 の折り線 L 2 により折り曲げられ、さらに第 1 の折り線 L 1 と第 2 の折り線 L 2 との中間に位置する折り線 (第 6 の折り線) L 6 により上方へ折り曲げられて、第 1 の折り線 L 1 が第 2 の折り線 L 2 の上方に重ねられている。よって前記折り線 L 6 が折り体 1 2 の表面 1 2 a に位置している。

【0036】

また、第 1 の折り線 L 1 と逆側の縁辺 1 1 b から幅 $(2/6)A$ の部分に設定された第 3 の折り線 L 3 で折られ、さらに縁辺 1 1 b から幅 $A/6$ の部分に設定された第 5 の折り線 L 5 により折られて、縁辺 1 1 b が第 3 の折り線 L 3 の下方に一致またはほぼ一致する形状に折られて、WZ 折り体 3 1 が形成される。この WZ 折り体 3 1 の長辺の $1/2$ の部分に設定される第 4 の折り線 L 4 により、2 つ折りとなるように折り畳まれて、図 8 (B) に示す折り畳み体 3 0 が形成される。

【0037】

図 8 (B) に示す折り畳み体 3 0 では、その面積が、図 2 (A) に示す展開されたウェットティッシュ 1 1 の面積の $1/12$ となり、きわめてコンパクトになる。また図 8 (B) に示す折り畳み体 3 0 では、幅寸法 D の $1/2$ の部分に前記折り線 L 6 が現れている。

【0038】

図 8 (B) に示す折り畳み体 3 0 が図 1 に示すのと同じ構造の包装体 1 内に収納されると、開口部 3 の中心に前記折り線 L 6 が現れる。開口部 3 に現れている折り線 L 6 を引き上げると、第 4 の折り線 L 4 での折り状態が広げられ、さらに WZ 折りも広げられて、2 枚折りされた折り体 1 2 の状態で引き上げられる。

【0039】

または、包装体 1 の上面 2 の側方に開口部 3 が形成されて、この開口部 3 に図 8 (B) の状態に折り畳まれた折り畳み体 3 0 の第 1 の折り線 L 1 が現れていてもよい。この場合には、第 1 の折り線 L 1 を引き出すことにより、2 つ折りの状態でウェットティッシュを取り出すことができる。あるいは包装体 1 に開口する開口部 3 に図 8 (B) に示す折り畳み体 3 0 の第 1 の折り線 L 1 と折り線 L 6 の双方が現われ、いずれかの折り線 L 1 または L 6 のどちらかを選択して引き出すようにしてもよい。

【0040】

10

20

30

40

50

図9 (A) (B) は、本発明の変形例を示している。

図9 (A) では、図2 (A) に示すウェットティッシュを第1の折り線L1で折り畳むときに、第1の折り線L1で2つ折りされるとともに、第1の折り線L1と逆側の縁部11bが第7の折り線L7により、幅寸法W1の部分で折り曲げられて縁辺11bと11bとがほぼ一致する状態に折られる。この状態の折り体12Aは、面積が展開状態のウェットティッシュ11の面積の1/2またはほぼ1/2である。

【0041】

図9 (B) では、ウェットティッシュ11が第1の折り線L1で2つ折りされるとともに、第1の折り線L1と逆側において、一方の縁部11bが内側に折り込まれ他方の縁部11bが上に重なるように、第8の折り線L8により折り畳まれる。よって、この折り体12Bの面積は、展開状態のウェットティッシュ11の面積の1/2未満である。

10

【0042】

図9 (A) に示す折り体12Aまたは、図9 (B) に示す折り体12Bが、図3 (A) (B) の工程、または図6 (A) (B)、あるいは図8 (A) (B) の工程で折られて、折り畳み体10または折り畳み体20あるいは折り畳み体30と同様な構造に折り畳まれる。

【0043】

図9 (A) (B) の工程で折り体12Aまたは12Bを形成し、その後第2の折り線L2、第3の折り線L3、第4の折り線L4、第5の折り線L5、さらには折り線L6で折り畳むことにより、コンパクトに折ることができ、また引き出し状態では、1/2の面積または1/2未満の面積で重ねられたものとして汚物処理などに使用できる。

20

なお、前記W1は2~5mm、W2は2~30mm程度が好ましい。

【0044】

また、図2 (A) に示すように、展開状態のウェットティッシュ11の前記第1の折り線L1と平行な縁辺の長さをb、これと直交する縁辺の長さをaとしたときに、aとbの差の絶対値が30mm以上の場合には、 $a > b$ であることが好ましい。

また、aとbの差の絶対値が30mm未満であるときには、 $a > b$ 、 $a < b$ 、あるいは $a = b$ のいずれであってもよい。

【0045】

上記のような寸法関係にすると、包装体1に収納される折り畳み体10、20の状態では、コンパクトになり、取出口から取出した状態の折り体12、12A、12Bでは、使いやすい大きさとなる。

30

なお、包装体1は袋状のものに限られず、硬質な容器であってもよい。

【0046】

【発明の効果】

以上のように、本発明では、ウェットティッシュをコンパクトに折り畳むことができ、包装体から引き出したときに、展開状態の1/2の面積または1/2未満の面積で重ねられたものとして使用できるため、包装体から引き出した後に折り畳む操作が不要であり、汚物処理の際に、汚物が浸透しにくくなる。

【図面の簡単な説明】

40

【図1】 本発明のウェットティッシュ包装体の斜視図、

【図2】 (A) (B) はウェットティッシュの第1の実施の形態での折り畳み順序を示す斜視図、

【図3】 (A) (B) は、第1の実施の形態での折り畳み順序を示す斜視図、

【図4】 包装体からウェットティッシュを取出す操作を示す斜視図、

【図5】 本発明の第2の実施の形態での折り畳み順序を示す斜視図、

【図6】 (A) (B) は、本発明の第2の実施の形態での折り畳み順序を示す斜視図、

【図7】 本発明の第3の実施の形態での折り畳み順序を示す斜視図、

【図8】 (A) (B) は、本発明の第3の実施の形態での折り畳み順序を示す斜視図、

【図9】 (A) (B) は第1の折り線で折り曲げた折り体の変形例を示す斜視図、

50

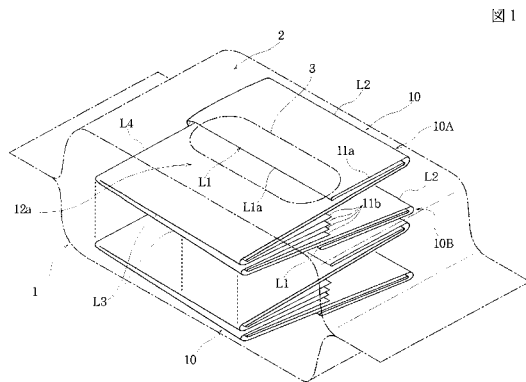
【符号の説明】

- 1 包装体
- 2 上面
- 3 開口部
- 10 第1の実施の形態の折り畳み体
- 11 ウエットティッシュ
- 11a, 11b 縁辺
- 12, 12A, 12B 折り体
- 12a 折り体の表面
- 12b 折り体の裏面
- 13 Z折り体
- 20 第2の実施の形態の折り畳み体
- 21 変形Z折り体
- 30 第3の実施の形態の折り畳み体
- 31 WZ折り体
- L1 第1の折り線
- L2 第2の折り線
- L3 第3の折り線
- L4 第4の折り線
- L5 第5の折り線
- L6 第6の折り線（第1の折り線と第2の折り線の中の折り線）
- L7 第7の折り線
- L8 第8の折り線

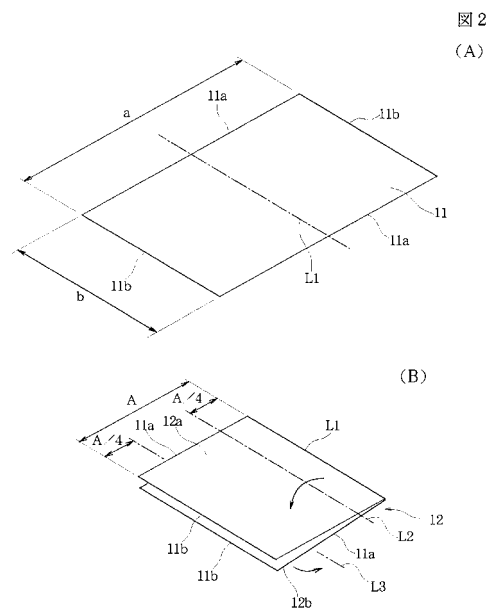
10

20

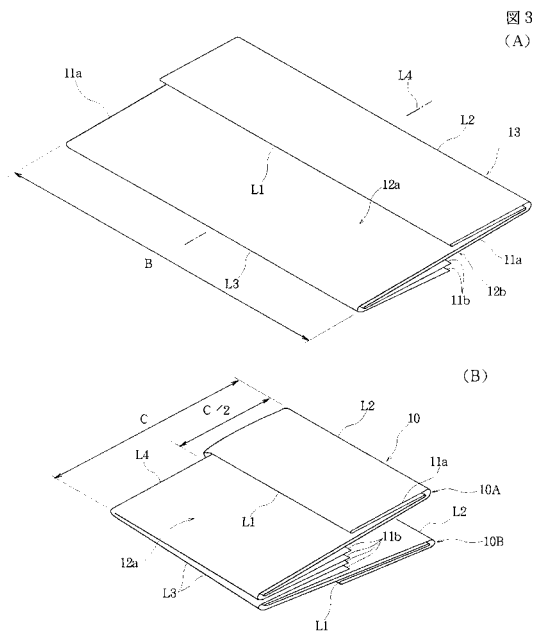
【図1】



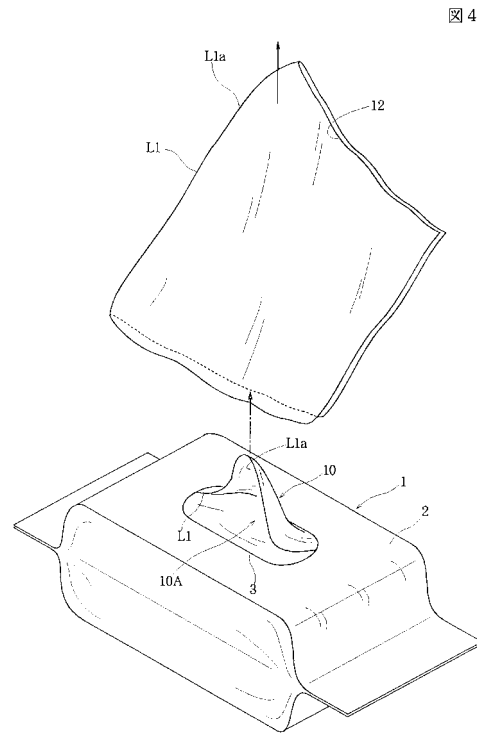
【図2】



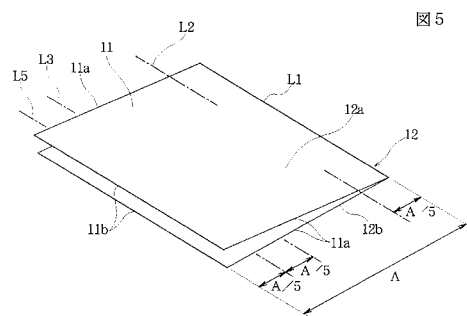
【図 3】



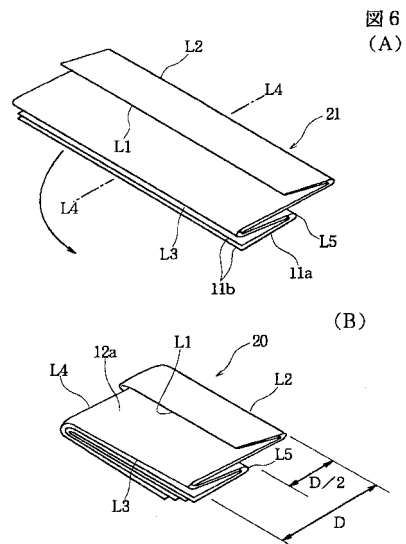
【図 4】



【図 5】



【図 6】



フロントページの続き

- (56)参考文献 特開平10-174663 (JP, A)
登録実用新案第3034469 (JP, U)
実開平05-070388 (JP, U)

- (58)調査した分野(Int.Cl.⁷, DB名)

A47K 10/42

A47K 7/00

B65D 83/08